

べ 議会だより つかい

第 80 号
2017
2.1

中学校の冬期休業学習会にボランティアとして参加する別海高校生

特集

議会報告会 開催される 2

第 4 回定例会 7

平成27年度決算を認定する
傍聴者インタビュー（平成寿大学のみなさん）

町政のここが聞きたい 12

一般質問（大内・中村・瀧川・今西・外山・木嶋）

シリーズ まちの宝物 地域とともにある別海高校 その2 22



北海道別海町議会

平成28年度

議会報告会を開催

11月15日（中春別ふれあいセンター・西春別ふれあいセンター）
 11月18日（別海町交流館ぷらと・尾岱沼地域センターきらくる）

情報の共有と町民参加を図り、議会や町政に対する町民の意見や提言を
 広く聴く場として、議会報告会が開催されています。
 各会場で出された質問と回答を項目別に要約して掲載します。

会場別参加者数

中春別地区	23名
西春別地区	19名
尾岱沼地区	11名
別海地区	16名
合計	69名

議会の基本理念について

質問

議会の基本理念のなかで資質の向上などうたわれているが、具体的にどのような取り組みをしているか。

回答

議会の基本理念はこれまでも実施していた内容を明文化したもので、政策立案能力の向上を目的とした研修会などを継続的に行っています。

質問

基本方針に適切な行政の監視と評価とあるが結果は公表しているのか。

回答

議案の採決の状況を公表しています。

他にも決算審査や監査などを実施し、それぞれの結果を公表しています。

わかりやすい議会とは

質問

わかりやすい議会とは具体的にどのようなことなのか。

回答

町民の声を受け議論されるさまざまな内容について、わかりやすく説明し、情報を公開する議会運営と考えています。

議会報告会の進め方について

質問

進行が分かりづらいところもあるのでレジュメをつけてほしい。

生涯学習センターの計画と図書館機能について

質問

建設が計画されている生涯学習センターについて、交流館ぷらとやマルチメディア館、図書館、

回答

参考にさせていただき、次回から準備したいと思っています。



熱心なやりとりが行われた議会報告会

回答

特に図書館機能を備え、市街地の中心に据えることで、高校生の放課後や社会人の仕事後などの利用促進を期待している。

回答

近日常に検討委員会の

開催が予定されています。
本年度は基本構想の段階ですので、今後、検討委員会に内容を確認してまいります。

別海高校の授業料無料化への検討を

質問

間口が復活した別海高校を盛り上げていく必要がある。
各農協や漁協、企業なども行政と協力し、授業料を無料にする取り組みなどを行ってほしい。

回答

高校授業料無償制度に代わり、高等学校就学支援金制度があります。

市町村民税が、30万4200円未満の世帯が無料となります。

別海高校で牛の飼育を

質問

日本一の酪農地帯という産業の特色を生かした魅力ある教育環境を打ち立てるため、別海高校で牛の飼育を行う必要があるのではないか。

全国から酪農に関心のある生徒を募集できる仕組みを考えてほしい。

回答

今年度から全道にパンフレットとポスターを配布しPR活動に力を入れています。

今後も魅力的な学校となるよう議会としても働きかけていきます。

尾岱沼への救急車の配備について

質問

尾岱沼に消防庁舎ができへり。ポートも完成した。救急車の配備検討は。

回答

昨年もご意見があり確認したところ、職員体制も含めた検討が必要であり、行政から今しばらく時間がほしいとの回答を受けています。

野付中学校付近の道路脇の崖崩れについて

質問

野付中学校と小学校の間の国道脇は、風雨や波の浸食により道路と崖先端の距離が狭くなっている。

通学路のため保護者から転落事故発生など不安の声がある。早急な対策が必要だ。

回答

行政側に現状の確認をさせていただきます。

質問

天井が黒ずんでいる。今後改修する計画はあるか。

回答

改修計画を行政に確認します。

確認したところ、天井については今年度改修予定です。

中春別のひょうたん山を取り崩し有効活用を

質問

中春別市街地周辺は道の急傾斜地崩壊危険箇所指定されている山がある。

中春別保育園の裏にあるひょうたん山は、危険を取り除き土地を有効活用したいと考えるが。

回答

地域の課題として町内会が主体となって、町もしくは道に要請するようお願いいたします。

別海町の将来に対するビジョン

質問

当町は人口減少が進み、産業も衰退傾向にある。

町民としても何とかしなければならぬという思いがある。議会としての考えは。

回答

当町の基幹産業を守ることが必要だと認識しています。

酪農は現在も後継者不

足が最重要課題であり、水産に関しても今後10年が世代交代の重要なタイミングを迎えます。

担い手対策に力を入れ、今後も議会一丸となってまちづくりに取り組んでいきます。

質問

西春別は自衛隊や乳業メーカーなど産業が存続していても、職員のほとんどは中標津に移住しており、地域の実質的な空洞化が進んでいる。

具体的な対策として地元に住む明確なメリットが必要ではないか。魅力あるまちづくりに努力してほしい。

回答

別海への定住を勧めている事業者もありますが、定住の義務を設けることはできません。



地域活性化の要となる産業の担い手対策 (写真は研修牧場)

各家庭の個別の事情もあると思いますので、町にどの住んでもらうか、地域ごとの方向性を明確にすることが重要だと考えています。

意見

農協合併が地域崩壊のきっかけだったのではないかと。市町村合併も含めて全国的に同様のことが起きている。

国の政策に安易に乗るのではなく、当町としての独自性を考えた政策が必要である。
住民が自分たちの地域を真剣に考えることも大切である。

介護施設に対する補助金

質問

グループホームすらへんへ行っている補助は、運営の赤字を補てんするための制度なのか経緯を知りたい。

他のグループホームに対しても赤字補てんを行うのか。

回答

設立時に補助制度がなかったグループホームすらんに対して、国や道の制度が策定されたのち、5年間の期限付きで補助金を出しています。

他の施設は設立時に助成しているので、運営費の補助を行う予定はありません。

質問

設立から10年あまりも経過した施設に対して補助を行うのは地方自治法に違反するのではないかと。また、違法性について議会で議論は行わなかったのか。

回答

必要性については議論しましたが、違法性については議論していません。

違反の有無は行政へ確認します。

確認したところ、違法性はないとの回答がありました。

高齢者対策について

質問

特別養護老人ホームと比較して民間施設の利用者負担は大きい状況である。民間施設を利用せざるを得ない状況になった時、生活が成り立つのか大きな不安が残る。

高齢化に向け、民間の取り組みの促進に加え町の取り組みもまだ必要なのではないか。

回答

貴重なご意見として受け取らせていただきます。高齢者への対策は町長の執行方針にもあり、議会としても緊急の課題として行政と連携して取り組んでいきます。

若年での介護施設の利用

質問

若年の障がい者を受け入れるような施設はないか。特別養護老人ホームは年齢要件があり60歳程度で障がいがあり入所させたい場合など受け入れてくれない。

回答

老人保健施設には受け入れ基準があり65歳未満でも利用が可能です。

特別養護老人ホームも受け入れの特例要件があります。

高齢者の移動手段

質問

最近、高齢者の自動車事故が問題となっている。現在の路線バスは本数も少なく非常に不便な状況であり、生活のための移動距離が大きくなってしまふ当町では、免許の返納なども行い難いのが現状である。

公的な移動手段の充実が必要だ。

回答

当町として避けて通れない課題であり、議会として真摯に受け止め、行政に伝え取り組んでいきます。

全国の事例と対策を参考にしながら地域に合った方法を検討し、提言していきたいと思えます。

へき地保育園の認定子ども園への移行

質問

へき地保育園は小さな子どもがいる若い酪農家にとっては欠かせない施設であり、酪農地帯にとって重要なものとなっている。

閉園の可能性があるへき地保育園は、認定子ども園への移行を実施しないではほしい。

回答

認定子ども園への移行は、へき地保育園を閉園させるための計画ではありません。平成29年度以降、子ども人数の推移も加味し、各地域に適した形の保育園となるよう段階的な検



今後より一層の充実が求められる高齢者対策

討が予定されています。

国民健康保険税の改正

質問

当町の国保税が非常に高いと聞いている。下げた努力をしてほしい。

回答

国保税は平成30年度から道が一括運営する制度となる予定ですが、当町は漁業や酪農業など事業者が多いことも影響し、現在より増額となる試算が出ています。

これは産業の構造的な仕組みによる結果であり現状に即していませんので、制度の運用開始に向けて道と協議していくよう働きかけます。

高齢者世帯の玄関先の除雪

質問

郊外の高齢者世帯には

重機による除雪が入っているが、玄関先に雪が集まり硬くなってしまい玄関が開かなくなることもある。

現状は近隣住民の助け合いでなんとか除雪しているが、地域の高齢化も進み対応が難しくなってきている。

町での対応ができないか。

回答

高齢者世帯にとって、除雪は命に関わる重要な問題として認識しているので、行政に要請していきます。

また、防災対策で進んでいる住民間のネットワークの形成などの手法を応用した除雪対策が行えないかも検討します。

畜産環境条例について

質問

河川への糞尿流出事故

が契機となって条例が制定される方向に向かったと認識しているが、それまでも魚を育む森づくり事業やバイオマスの有効利用などさまざまな事業が実施されている。それらの政策の有効性の検証が先なのは。

回答

畜産環境条例は、当町の酪農が食の安全性の確保、環境への負荷を減ら

し、産業としての持続可能性を担保するために制定したものです。

糞尿流出事故のみを理由に制定されたものではありません。

質問

頭数制限基準値の積算根拠となっている地下水の汚染と、河川環境の汚染とは直接的な強い因果関係はないと個人的に考えるが。

回答

条例の内容は、時代の変化に同じ検証し、継続的に検討が必要だと考えています。

質問

畜産環境条例の本格施行に向けて農家側の準備は入念に行われているが、当

初の計画にあった町による調査研究など進んでいないのではないかと。

当町が誇る制度となるよう議会はもっと追求してほしい。

回答

農家側の準備は順調に行われていると認識しています。

町独自の研究は不足している部分もありますので、取り組みを促進するよう意見します。

意見

各農家での糞尿の保管容量には限りがあるため、土壌凍結期間が長くなったり大雨が降ったりすると運用上大きな影響が出る。

質問

河川に影響の出ない形での野積み方法の開発など、緊急避難的に糞尿の処理を行う方法を研究してほしい。

河川環境の改善について

質問

畜産環境条例の内容が住民にどこまで伝わり具体的な取り組みとなっているのか。

また、その取り組みによって河川環境はどの程度改善されているのか。

回答

畜産環境条例の本格施行は来年4月から、酪農家に対して周知徹底の取り組みが行われています。

町独自で調査を実施した結果、効果が出ていると報告を受けています。

バイオガス発電株式会社の状況

質問

離農が増えるなか堆肥の確保は行えているのか。売電の状況とバイオマス発電株式会社の収支状況はどうなっているのか。



将来にわたり持続できる循環型の産業形態が求められる

回答

発電施設の運営当初から長ワラの巻き込み問題などもあったようですが、現在、技術的な問題は解決しているようです。

しかし、消化液の貯留槽不足の影響などもあり、堆肥は十分にありますが、設備の都合として計画の受け入れ数量は満たせず売電は計画の6割程度となっている状況です。

まだ経営も安定していない状況ですが、初年度は利益剰余金に大きなマイナスが計上されています。早急に経営が軌道に乗るよう対応を求めたいと思います。

TPPPに対する取り組み

質問

TPPPについて国会決議も衆議院を通った状況であり、議会も6月に意見書を出している。

今後、具体的にどのような取り組みをしていくのか。

回答

6月の意見書は、昨年末に出たTPP関連政策大綱に関して情報が不足している部分があったので、より丁寧な情報提供を求めたものです。

今後、議会としては情報収集と勉強を基本として、研修会などを行う予定です。

道の駅の除雪

質問

尾岱沼の道の駅の駐車場は、観光施設だけでなく観光客にとっては降雪の際などの避難場所としての役割もある。

しかし、面している国道から除雪が遅れることがある。速やかに除雪されるよう要望する。

回答

町側の除雪優先順位がどのようになっていくか確認します。

道の駅駐車場の公共的な役割については十分認識しているので、町に早急な除雪を要請していきます。

ふるさと交流館の今後

質問

ふるさと交流館の今後の方針は。

回答 平成30年4月の指定管理者の契約更新に向けて、そのあり方も含めて具体的な検討をしていくと町の方針を確認しています。

各会場アンケートからの意見

● 報告会に参加し発言する人は、もっと見識を持った意見を出すべき。

● 個別な事案に時間を費やし過ぎるのは、報告会の意義をなくしてしまうと思う。

● あまりに建設的でない意見は聞かなくていい。

● 一部の参加者が発言しすぎです。もう少し建設的で全体に反映するような意見をしていた方がいい。

● 当町の国保税は他地域より高いと聞いている。

● 別海は国からの補助金なども多いので何とか下げたい。

● 非常に有意義な報告会だと思つ。これからも続けてほしい。

● 広報・広聴常任委員会の活動報告が丁寧で分かりやすかった。

● 開催されない地域からの移動が大変なので、希望者には移動手段を確保してほしい。

● 当初あまり関心はなかったが、少しは議会の動きが理解できた。苦労もあ

● 個人的な見解などは司会者が早めに止めてほしい。

● 質問と答弁がかみ合っていない場面もあった。

● 今後は事前に質問を出してもらって、的確に回答し話し合える準備も必要だと考える。

● 行政のまちづくり懇談会と開催日の調整を要する。

● 当町は「ふるさと納税」の実績がなぜ低いのか？根室市は実績がずいぶんと上がっている。返礼品



活発な発言のほかアンケートにも多くの意見が寄せられた

も町内の特産品があるので利用してはどうか。

● 各地域からの行政へ行った要請内容についても、議会として把握していた方がいいと思う。

● 議会への質問と、行政への意見と混同した参加者の発言が多いうちに感じた。

また、専門的すぎる内容についても別な機会を設けて話し合ってもらいたい。

● 「分かりやすかった」とは言えないが、このような報告会が必要なことで毎年続けてほしい。

● 2時間では時間が足りない。長時間の開催を検討してほしい。

平成27年度 各会計決算を審査・認定する

第4回定例会では、平成27年度別海町各会計決算審査特別委員会（戸田憲悦委員長）の報告を受け討論・採決の結果、一般会計は賛成多数をもって認定しました。その他7会計については全会一致で認定しました。以下概要について報告します。

一般会計1億1618万円の黒字決算

委員会報告

一般会計については、歳入歳出実質収支額で約1億1618万円の黒字決算となっており、経費削減意識のもと、財政力指数は前年度と比較して増加しています。借入金負担金の状況を示す実質公債費比率は3年連続で減少し、財政の硬直化を示す経常収支比率についても前年度より減少しており、改善の傾向が見られます。

しかし、今後も安定的な行政サービスを行うためには、積極的かつ的確な財源の確保に努める必要があります。

町の根幹となる町税の収納状況は、経済状況の厳しい中において収納率を5年連続で上げていることは、関係職員の実績

によるものと高く評価できます。

また、国や道支出金の積極的な導入、基金の計画的かつ有利な運用などにより、更なる財源確保の努力も重要であります。当町が将来にわたり持続的・継続的に発展していくため、今後とも施策

や事業の優先化を図り、より効果的で効率的な見直し、真に必要なニーズにこたえるための精査を行い、別海町自治基本条例に基づき協働のまちづくりに精神のもと、町民の福祉向上に寄与されることを期待します。

平成27年度 各会計決算

	歳入(収入)	歳出(支出)
一般会計	177億2650万円	176億49万円
国民健康保険特別会計	30億766万円	29億9793万円
下水道事業特別会計	6億5320万円	6億5306万円
介護サービス事業特別会計	4億7001万円	4億6976万円
介護保険特別会計	9億5082万円	9億1126万円
後期高齢者医療特別会計	1億4502万円	1億4450万円
町立別海病院事業会計※	20億4458万円	22億9162万円
水道事業会計※	10億2160万円	7億4377万円

※収益的収支のみ掲載しています。(数字は千円以下切り捨て)

平成27年度 一般会計決算認定

反対

中村忠士議員

税の徴収に関して任務を広域の「税滞納整理機構」に任せましたが、これでは滞納問題の真の解決にはならない。

ごみ焼却場に関し、年々負担金が増えてきていることへの対策ならびに老朽化に対する将来的見通し・備えを明確にしないことは問題である。

「6次総合計画」において「森林率」の向上が明記されているにもかかわらず、具体的成果が表れず方策についても明確でない。

「ふるさと交流館」に関し、保全費用と指定管理費などで年間数千円かかる見通しだが、指定管理制をとったことの検証と町民説明が極めて不十分である。

賛成

佐藤初雄議員

当町の27年度各会計決算は、一般会計では、約176億円を超える歳出があり、各種事業費は70億円を超える主要な施策を実施しながら、実質収支が1億1千万円以上の黒字となったことは、健全な財政運営の結果といえる。

個別の予算執行内容は、公債費の削減をはじめ、各分野における経費削減に取り組みなど、関係法令に従い適正に執行されており、将来の財政需要や状況の変化に対応するため、財政調整基金へ積み立てを行うなど、努力は評価されることである。

また、基幹産業の振興や町民生活に直結した福祉施策などが展開されており、住民の要望にもおむね配慮した内容である。

第4回 定例会

12月13日～16日開催

第4回定例会は12月13日から4日間の会期で開かれました。補正予算の内容と専決処分および条例の改正と意見書の内容についてお伝えします。

平成28年度 補正予算概要

	補正額	予算総額
一般会計	29億6150万円	223億8890万円
介護サービス事業	△520万円	4億9110万円
下水道事業会計	△60万円	6億9480万円

支出の部（主な補正）

町有施設解体撤去事業	144万円減額
一般車両管理経費	579万円減額
環境保全型かんがい排水事業	162万円減額
北方農水産物消費拡大推進事業	630万円減額
除雪機械等購入事業	1416万円減額
防衛施設周辺道路整備事業	2466万円減額
奨学資金貸付事業経費	216万円減額
地域情報通信施設整備事業	283万円増額
後期高齢者医療広域連合関係経費	621万円増額
認定子ども園等利用者負担助成事業	500万円増額
し尿処理事業経費	840万円増額
畜産競争力強化緊急整備事業	24億7222万円増額
基盤整備促進事業	1億5573万円増額
除雪事業経費	8210万円増額
公営住宅管理経費	244万円増額
小学校校舎等施設管理経費	160万円増額
中学校校舎等施設管理経費	170万円増額
体育施設管理経費	50万円増額

本定例会に町長より提出された補正予算は、事業の確定などで不用額を精査する補正が主なものです。

条例の改正は、農業委員会の委員定数の変更や町職員などの給与に関する条例を一部改正する件です。

また、水沼前町長を名譽町民とする同意案件や

期間満了にともなう指定管理者の指定などです。（別海町ふれあいランド、別海町総合スポーツセンター関連の13施設）

アスベスト調査関連で小・中学校、体育館などのストーブのレンタル料や調査費などが組み込まれました。



除雪事業経費

金額 8210万円

町民の生活と安全を守っている除雪活動



認定子ども園等利用者負担助成事業

金額 500万円

友だちや先生方とおいしく楽しく給食を食べています（野付幼稚園）

条例の制定

◆別海町農業委員会の委員の定数に関する条例の制定

農業委員会などに関する法律の改正に伴い、委員の定数を27名とするものです。

◆別海町議会の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正

◆特別職の職員で常勤のものとの給与及び旅費に関する条例の一部改正

◆教育長の給与及び旅費並びに勤務時間等に関する条例の一部改正

◆別海町職員の給与に関する条例の一部改正

以上4件はいずれも人事院勧告に基づく条例の改正です。

◆別海町税条例の一部改正

日本と台湾の間で所得に対する租税に関する二重課税の回避および脱税の防止をするために法律が整備されたことに伴う改正です。

◆別海町介護予防及び生活支援事業条例の一部改正

条例名が別海町生活支援条例となり、事業の目的、事業の種類、事業の内容や利用申請および費用について内容を一部改めるものです。

別海町名誉町民を決定

水沼猛前町長に名誉町民の称号を贈るものです。

指定管理者の指定

◆公の施設に係る指定管

理者の指定

別海町総合スポーツセンター各施設

【指定管理者】

一般財団法人 別海町地域振興財団

別海町ふれあいランド

【指定管理者】

株式会社別海町観光開発公社

意見書

◆地方議会議員の厚生年金制度への加入を求める意見書
(全会一致で可決)

提出者 佐藤 初雄 議員

(他4名)

町村では議員への立候補者が減少し、無投票当選の増加など地方議会議員へのなり手不足が問題となっている。

国民の幅広い政治参加や地方議会の人材確保の

観点から、厚生年金制度加入のための法整備を強く求める。

◆大雨災害に関する意見書(全会一致で可決)

提出者 西原 浩 議員

(他4名)

全道各地で甚大な被害が発生し、住民の暮らしや経済活動に多大な影響が生じている。

災害からの迅速な復旧と、今後の防災対策に特段の配慮を強く要望する。

◆JR北海道への経営支援を求める意見書(全会一致で可決)

提出者 松壽 孝雄 議員

(他4名)

JR北海道は発足当初から国の経営安定化基金により経営を維持している。

積雪寒冷地という気象条件も重なり、設備の維

持管理に多額の費用が必要である。

地域住民の日常生活に重要な移動手段である鉄道を、北海道において公共交通機関としての役割を發揮できるよう財政支援などを強く要望する。

◆地方一般財源総額の確保等の緊急的な対応を求める意見書(全会一致で可決)

提出者 沓澤 昌廣 議員

(他4名)

財政制度等審議会から、地方交付税を削減すべきとの趣旨を盛り込んだ建議が財務大臣に提出されている。

しかしすべての国民が等しく住み慣れた地域で安心して暮らし続けられ、社会保障と強い経済を構築するために、地方自治体が安定的に行政サービスを提供できる財政基盤の確立が重要である。

地方交付税をはじめとする地方一般財源総額の確保が必要不可欠で適切な措置を講ずるよう強く要望する。

◆新たな国民健康保険制度の円滑な実施を求める意見書(全会一致で可決)

提出者 福祉医療常任委員会 委員長 戸田 憲悦 議員

平成30年度から都道府県が市町村とともに運営を担うこととされている。

持続可能な国民健康保険制度の構築に向けた措置であるが、本道は小規模な市町村が多く、新たな制度への移行に向けた調整に困難が伴う。国においては、本道の実情を十分考慮し、制度の円滑な実施に向け、特段の配慮を講ずるよう強く要望する。

◆介護保険サービスの適切な確保と介護従事者の処遇改善を求める意見書
(全会一致で可決)

提出者 福祉医療常任委員会

委員長 戸田 憲悦 議員

軽度者(要支援・要介護1・2)に対する地域支援事業への移行と負担軽減策に配慮した公平性の確保と、必要なサービスを受けることができる制度の維持。

介護人材の安定的な確保のための処遇改善と利用者負担の増とならないよう財政措置を求める。

専決処分を承認

◆工事請負契約の一部を変更する専決処分について承認しました。

- ・中春別中学校校外構工事
- ・上西春別中学校校外構工事
- ・根室中部3号主要幹線改良舗装工事

議会傍聴インタビュー

一般質問の傍聴に訪れた方にお話しを伺いました。

【お話を伺った方】 平成寿大学の取り組みとして傍聴にお越しくくださった皆さんを代表し、渡辺昇さんと飯塚竹夫さんのお二人にお話を伺いました。



傍聴いただいた平成寿大学の皆さん 最後列左から2番目 飯塚さん、4番目 渡辺さん

広報…傍聴された感想は

飯塚…全く初めての傍聴です。いろいろな質問が聞けて良かった。別海町の将来を考えた人口問題の質問は奥行きが深いと感じた。質問内容が解決しそうなことが多くて良かった。

渡辺…議員も勉強しているという印象を持った。議員の質問に町がどんな答えをするか注視している。今回町長不在で「人工透析」の質問を取り下げたが、町長の考えはどうなのか聞きたかったので、残念。老人なりにパワーを生かすために勉強することは大切だと思う。その観点から今回の平成寿大学の企画は良く、勉強できて良かった。

広報…議会だよりの感想は

飯塚…充実してわかりやすく中身も濃くなってきている。

渡辺…議会だよりで議員の活動を知ることができるのでとても良いと感じている。楽しみにしている。

広報…議会だよりへの要望は

飯塚…議会だよりが出たころから、すごいことするなと思っていた。妻も真剣に、興味をもって読んでいます。これからも良い紙面を作ってほしい。

渡辺…ヨコ文字でないと表現できないというものもあると思うが、ひとこと注釈をつけてほしい。わかりやすい文章で書いてほしい。

第4回定例会（12月13日～16日）

討論が行われた議案の採決結果		小 椋 哲 也	外 山 浩 司	大 内 省 吾	木 嶋 悦 寛	松 壽 孝 雄	森 本 一 夫	今 西 和 雄	西 原 浩	沓 澤 昌 廣	小 林 敏 之	瀧 川 榮 子	戸 田 憲 悦	中 村 忠 士	渡 邊 政 吉	佐 藤 初 雄	松 原 政 勝	採 決 結 果
認定第1号	平成27年度別海町一般会計歳入歳出決算認定（7頁参照）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	●	○	○	※	可

○原案賛成 ●原案反対 ※議長は可否同数の場合に決裁権があります

議案番号	件名
議案第78号	平成28年度別海町一般会計補正予算
議案第79号	平成28年度別海町下水道事業特別会計補正予算
議案第80号	平成28年度別海町介護サービス事業特別会計補正予算
議案第81号	平成28年度町立別海病院事業会計補正予算
議案第82号	平成28年度別海町水道事業会計補正予算
議案第83号	別海町農業委員会の委員の定数に関する条例の制定について
議案第84号	職員の勤務時間及び休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
議案第85号	別海町議会議員の議員報酬額及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
議案第86号	特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について
議案第87号	教育長の給与及び旅費並びに勤務時間等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
議案第88号	別海町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について
議案第89号	別海町町税条例の一部を改正する条例の制定について
議案第90号	別海町国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について
議案第91号	別海町介護予防及び生活支援事業条例の一部を改正する条例の制定について
議案第92号	別海町立学校設置条例の一部を改正する条例の制定について
議案第93号	別海町名誉町民の決定について
議案第94号	尾岱沼漁港における公有水面埋立について
議案第95号	公の施設に係る指定管理者の指定について
議案第96号	公の施設に係る指定管理者の指定について
報告第6号	専決処分の報告について（和解及び損害賠償額の決定について）
報告第7号	専決処分の報告について（中春別中学校外構工事請負契約の一部変更 9月21日）
報告第8号	専決処分の報告について（中春別中学校外構工事請負契約の一部変更 11月25日）
報告第9号	専決処分の報告について（上西春別中学校外構工事請負契約の一部変更 9月21日）
報告第10号	専決処分の報告について（上西春別中学校外構工事請負契約の一部変更 11月25日）
報告第11号	専決処分の報告について（根室中部3号主要幹線改良舗装工事請負契約の一部変更）

以上、全会一致で可決しました

第4回定例会 一般質問

町政のここが聞きたい

第4回定例会では2日目（12月14日）に6議員が一般質問をしました。各議員の質問項目とその内容を要約して掲載します。（全文は町のホームページに掲載）
なお、町長不在のため一部質問を平成29年3月定例会に行なうこととしました。

- 大内 省吾 議員……………13
 - 1 中小企業を取り巻く環境と中小企業利子補給支援事業
 - 2 国民健康保険税の今後は
- 中村 忠士 議員……………14
 - 1 若年層定着のため、労働環境改善に支援を
 - 2 アスベスト（石綿）対策の見通しは
 - 3 給食センター建て替えの見通しは
- 瀧川 榮子 議員……………15
 - 1 障がい者差別解消法浸透のための今後の取り組みは
 - 2 市民後見人養成研修実施後の現状と今後の取り組みは
- 今西 和雄 議員……………16
 - 1 指定管理制度の推移と今後の考え方は
 - 2 酪農研修牧場の運営や指導体制の一層の充実を
 - 3 畜産環境条例施行に向け準備が整ったか
- 外山 浩司 議員……………17
 - 1 幼稚園・小学校・中学校のトイレの状況は
- 木嶋 悦寛 議員……………17
 - 1 次期総合計画策定に町民会議の設置は

次回定例会に質問を延期した内容

★木嶋 悦寛 議員

- 1 「第7次総合計画の準備作業」に向けてのうち
 - (1) 第7次総合計画策定に臨む町長の思い
 - 2 「国際的な経済交流」

★小椋 哲也 議員

- 1 「透析医療体制の整備と患者および家族の支援体制」

詳しい議事録は町のホームページに掲載します。

一般質問とは、行政全般について議題とは関係なく議員主導で政策論議できる仕組み。質問内容は事前に通告する必要があり、定例会でのみ行える。持ち時間はひとり60分となっている。

大内議員 中小企業を取り巻く環境と 中小企業利子補給支援事業

産業振興部長 中小企業対策は

今後検討して行く

質問

町内の中小企業を取り巻く環境は近年益々厳しさを増している。

どの業種を見ても生き残り策のため、大変な努力をしているのが現状である。

平成26年経済センサスによると、町内では一次産業・公務員関係の方を除いた勤労者が4800人程度おり、何らかの事業所に勤務されていたり個人で事業を営んでいる。中小企業対策としての、

利子補給金の特例が平成30年3月までとなっていくが、その後については、どのような考えか。

佐藤産業振興部長 今後も継続できるよう、検討していく。

佐藤産業振興部長

各金融機関には融資枠が設定されているが、枠がなくなり融資を受けられなかったという声を聞くが、今後の課題と状況は。

質問

佐藤産業振興部長 融資枠を満額融資している金融機関と、融資枠に余裕のある金融機関がある。

質問

平成28年度からは、各金融機関の間で融通しあい、融資が受けられない中小企業者が出ないような対応をする。

この補助金については全体で2500万円ほどであり、保証協会付なので町としての焦げ付きはほとんどないが、現在の貸付限度額では、今日の経済情勢や多くの事業所の事業規模を考えると少ないのではないかと考える。

新規事業者の育成にもつながることであり、中

国民健康保険税の 今後は

国民健康保険税の 今後は

今後は

質問

国民健康保険制度は、法律が改正され平成30年度より財政運営が道へ移行されるが、多くの町民は、生活に多大な影響を与える特別な思いで注視している。

町は今後も道と協議すると思うが、現時点では対応をどのように考えているか。

質問

一次産業の多い当町は、平均収入が他の地域より多く、負担増となる試算

河嶋福祉部長

現在、道では、「北海道国民健康保険運営方針」を策定中で、この方針の中では、市町村の保険税率の基礎となる医療費水準や所得水準を勘案した標準保険料率を示すこととなっている。

この運営方針の策定では、北海道国民健康保険運営協議会での審議や、道や市町村の実務担当者などで構成するワーキンググループで検討し所得水準を勘案した標準保険料率を示す予定です。

町としては、今後も試算結果や算定方法などを分析し、必要に応じあらゆる協議の場において適切な標準保険料となるようしっかりと意見を伝えていく。

国民健康保険は、国民皆保険の最後の砦で、町民の医療を受ける環境を守る上でも重要である。

今後の動きを見据えながら、町としてしっかりと対応していく。

佐藤副町長

長期的視点に立った国民健康保険事業の安定的な運営や、財政基盤の強化を目的とした主旨は理解できるが、急激な負担増、とりわけ、低所得者に対する負担が増えることは危惧される。

可能な限り避けることが必要で、今後、他の地方自治体とも連携し、情報収集を進め、国の責任において財政基盤強化を確実に実現・実行することを国・道に強く要請する。

国民健康保険は、国民皆保険の最後の砦で、町民の医療を受ける環境を守る上でも重要である。

今後の動きを見据えながら、町としてしっかりと対応していく。

今後の動きを見据えながら、町としてしっかりと対応していく。



大内省吾議員



中小企業融資の窓口となっている商工会

中村忠士議員



若年層定着のため、労働環境改善に支援を

中村議員

副町長 研究の必要がある

河嶋福祉部長

意見交換や要望書などで人材不足に苦慮している状況であることを確認している。

質問

労働環境の改善により若年層の定着、流入の状況を作ることができる。労働環境改善に取り組む企業への支援を提案する。

佐藤産業振興部長

利子補給、経営拡大に対する支援など町の施策さらに国の建設労働者緊急育成支援事業などの活用に取り組んでいる。

質問

人口減対策のうち、若年層の流出対策について町の考えを聞く。現在町内の企業は人手不足に悩んでいる。実態調査はしたか。

佐藤副町長

研究していく必要があると思っている。

質問

テレワーク事業の現状と課題は。

竹中総務部長

本年度の滞在型テレワークや移任体験者数は、10月末現在で企業の社31名個人12名。滞在日数は延べ211日。

事業を担っている「ほらり協議会」では、新しい働きかたに向けた人材育成事業、移任者向けウェブサイトの整備に取り組んでいる。

アスベスト(石綿)対策の見通しは

質問

公共施設のアスベスト対策について、現状と今後の見通しは。

中谷教育部長

上西春別小学校、西春別中学校、上風連中学校については、石綿含有分析調査結果「含有なし」となったことからボイラーを稼働した。

野付小学校体育館については調査中だが、仮煙突の設置を含めできるだけ早期に稼働できるように準備を進めている。上西春別中学校については、12月下旬に新校舎に引越す予定でいる。

宮越建設水道部長

他の公共施設は、石綿含有断熱材が使用されている可能性が有る年代の施設11施設について濃度測定と含有検査を行っている。また石綿含有断熱材を使用している可能性が低い年代の施設15施設については含有検査を行っている。

定となっている。

給食センター建て替えの見通しは

質問

給食センター建て替えについて、現状と今後の見通しは

真籠教育長

(仮称)生涯学習センターとあわせて、「矢日別演習場周辺まちづくり構想」に位置づけて、防衛省補助事業で整備を進めることとして検討してきたが

当補助事業で両施設を整備する場合、施設機能に制約が生じること



昭和44年に建設され築後50年に迫る給食センター

議員 瀧川
障がい者差別解消法浸透のための今後の取り組みは

福祉部長 自発的な研修の実施など
具体的取り組みを検討する

質問

障害者権利条約の法整備の一環として、今年4月から障害者差別解消法がスタートした。

町作成のパンフレットには、事業者の望ましい取り組みが説明されているが、事業者に対してどのような働きかけがされているか。

※障がいを理由とする差別を解消して、障がいのある人もない人も、平等に生活できる社会づくりを進めるための法律。

河嶋福祉部長

商工会・福祉事業者・教育現場などには、各所管省庁から北海道を通じて、情報提供や啓発がされている。町から直接事業者に働きかけは行っていない。



瀧川榮子議員

今後、社会福祉協会や商工会など、各障がい者福祉関係団体と協議し、意見をいたさないながら、自発的な研修・講習会の実施を促すなど、具体的な取り組みを検討する。



車椅子使用者の安全で安心な乗降が望まれる

組みを検討する。

質問

障がいを持つ人が安心して外出できることも、差別解消の一つと考える。当町では福祉車両以外、車椅子対応車がなく、車椅子使用者がバスに乗降する場合、利用者も援助者も緊張と危険が常に伴う状況にある。車椅子対応バスの導入が必要と考えるが。

竹中総務部長

来年3月納車予定の生活バスは、ノンステップバス車を採用しており、車椅子のままでの乗降が可能となる。高齢者も、安心して乗降できる仕様となる。

イベント時の巡回バスなど、生活バス以外の用途も検討している。

市民後見人養成研修実施後の現状と今後の取り組みは

質問

成年後見制度活用はどのような方が対象者となるか。

河嶋福祉部長

認知症、知的障害、精神障害などにより、日常生活におけるさまざまな場面において、判断能力が十分でない方が対象となる。

質問

町では平成27年度から市民後見人養成研修を始めた。後見業務ができる準備は整っているか。

河嶋福祉部長

町では、成年後見の仕組みの定着、制度利用が必要な方々を支援していく体制づくりが必要と考えている。

現在事業実施にあたって、後見に関する相談業務、市民後見人の活動支援などを行う後見実施機関として、社会福祉協議会に委託を予定。平成29年4月からの実施に向け、協議、準備を進めている。

質問

制度周知への考えは。

河嶋福祉部長

周知は重要と考えている。制度の内容、市民後見人および成年後見実施機関の役割について広く

周知していく。今年度はフォローアップ研修を実施したが、来年度は養成研修も行う予定としている。

成年後見制度とは

認知症、知的障害、精神障害などの理由で判断能力が不十分な方々を保護、支援する制度です。

法定後見制度と任意後見制度があり、法定後見制度では、家庭裁判所で選ばれた成年後見人が、本人を代理して財産管理や契約などの法律行為を行います。

市民後見人は成年後見人ひとつですが、成年後見人の必要性が高まる中、市民後見人を中心とした地域で支える取り組みが注目されています。

今西和雄議員



今西議員 指定管理制度の推移と今後の考え方は

副町長 新たに制度を導入する考えはない

質問 指定管理者による管理運営および事業展開の現状は。

竹中総務部長
平成18年4月からこれ



社会体育施設の指定管理者が行ったチャレンジスケート教室

までに53の公的施設に本制度を導入した。

その内6施設は廃止や利用形態の変更により対象から外れ、2施設は1期目の指定期間中だ。

残る45施設は管理運営状況も適切であり、2期目以降も継続している現状から、総体として本制度は順調に推移している。

質問

今後新たに制度の導入を考えている施設はあるか。

佐藤副町長

設置目的に沿って検討を重ねており、一定の整理はできている。

現時点で新たに制度導入する公的施設は考えていない。

酪農研修牧場の運営や指導体制の一層の充実を

質問

研修牧場の現状と、今後の研修生募集活動は。

佐藤産業振興部長

平成8年に設立以来、管内外に72組の新規就農者を送り出してきた。

現在、研修生6組11名、指導員4名、場長を含め事務職員3名の体制で運営している。

募集活動は、「別海町地域担い手総合支援協議会」を核に、農協との連携で「新・農業人フェア」への積極参加や大都市圏を中心に農業系教育機関の

訪問、また、情報誌を利用したメディア広報活動も行っている。

質問

研修生指導体制の現状は。

佐藤副町長

町は有限会社別海町酪農研修牧場の大株主であり、指導運営体制の一層の充実に努めていく。

また、必要な施設整備に加えて、既存施設の老朽化も進んでいることから、農協とも協議しながら、計画的な整備を図っていく。

畜産環境条例施行に向け準備が整ったか

質問

3年間の猶予期間で、町は家畜糞尿処理の研究をどのように行ってきたか。

佐藤産業振興部長

家畜排せつ物適正化指導チームによる全戸調査、指導、助言を行ってきた。

また、水環境、畜産環境を考える研究会や意見交換会を全町民、農漁業関係者を対象に毎年行ってきた。

さらに酪農学園大学と受託研究契約を結び、簡易糞尿施設の導入と利用の課題や適切な一時保管について共同で取り組んできた。

質問

農家・農協・行政が施行に向け準備を整え、平成29年4月より本格的に施行することと理解しているが。

佐藤副町長

現在、規制基準などの内容に関し、関係機関などの協力を得ながら検証



農家自らが取り組んでいる施設周辺環境整備

を続けている。

2月には、本条例を研究テーマとした研修会も開催する予定だ。

3月の定例会までには、判断をすることで考えている。

質問

4月スタートの結論を、3月定例会に示すのか。

佐藤副町長

必要があれば、条例改正を含め3月定例会において示したい。

議員 外山
**幼稚園・小学校・
中学校のトイレの状況は**

教育部長 過去4年間でトイレの

洋式化事業を展開

質問

学校のトイレは洋式化が進まず、排泄を我慢する児童生徒の存在や衛生面の懸念もある。

文部科学省の便器調査では、43・3%が洋式トイレという実態だ。

町立の幼稚園・小学校・中学校のトイレの状況は。

中谷教育部長

当町では、平成24年度から平成27年度までの4年間で実施したトイレ洋式化事業で既存のトイレ

の洋式化を進めてきた。

平成24年度当時、校舎で31・3%、体育館20%だった洋式トイレの割合を引き上げ、和式トイレの洋式化および既存洋式トイレの暖房化を行った。

その結果、校舎で53・1%、体育館で51・9%、合計で52・8%となり全道・全国の洋式化率を上回っている状況である。

質問

トイレの実態では、ある幼稚園ではトイレが1か所だけで、子どもたちと先生方(男女)が共有。ある小学校では、下水道の関係もあり一部職員用が和式のくみ取り式である。

外山浩司議員



また、職員トイレのほとんどが和式で、男女共に一個ずつという実態だ。

そのため、幼稚園の役員会時に、女性役員が「とても気を遣っている」と話していた。学校の女子職員の中には、限られた休み時間に使用中のため我慢をする先生もいた。

また、膝や腰が悪い職員や妊婦さんは、「和式がとても辛い、辛かった」と訴えていた。働きやすい職場の一つにトイレ環境も挙げられる。今後のトイレの整備計画について。

ただ、今後の対応については、計画的に行っている校舎の改修時などにトイレを考慮するとも含めて、個別の案件については、学校や幼稚園とそれぞれ協議をしながら対応していく。

中谷教育部長

平成27年度までの整備計画に基づき改修を行ってきたので、現在のところ、今後の整備計画はない。

また、今後の対応については、計画的に行っている校舎の改修時などにトイレを考慮するとも含めて、個別の案件については、学校や幼稚園とそれぞれ協議をしながら対応していく。



心をこめ、トイレ掃除に取り組む子どもたち(中央小学校)

木嶋悦寛議員



シリテーター)を招いたことだと考える。

総合計画策定に向け、町民会議設置の考えはあるか。

議員 木嶋
**次期総合計画策定に
町民会議の設置は**

総務部長 偏りなく意見を聞く機会を作りたい

木嶋議員

質問

現在進行中の第6次総合計画策定時において画期的だったのは、協働のまちづくり町民会議を立ち上げ、第6次総合計画の策定にも関わったこと、会議進行の専門家(ファ

竹中総務部長

第7次総合計画は平成31年度から10年間の総合計画として策定するが、2年度早く、平成29年度から作業を始める予定だ。一般町民の意見を広く聞くことも、大変重要だと考えている。

現段階で具体的な体制は決めていないが、偏りのない形で意見を聞ける機会をつくりたい。

質問

会議進行の専門家を招致する予定は

竹中総務部長

まだ決まっていないが、会議進行の専門家への委託など外部への委託も考えられる。

各常任委員会のうごき

第3回定例会から第4回定例会に行われた各常任委員会の活動について概要をお知らせします。

**総務文教
常任委員会**
委員長 松壽 孝雄

情報セキュリティ強化対策について

日本年金機構の個人情報流出問題や、近年サイバー攻撃が急速に複雑巧妙化しています。

マイナンバー制度および地方自治体の行政執行に重大な影響を与えることが想定されることから、三層からなる対策を講じることにより、情報セキュリティ対策強化を平成29年1月より実施します。

ヤチカンバ群生地の保護事業について

ヤチカンバは、日本では北海道更別村と別海町の2カ所のみで隔離分布する北海道特産種です。

昭和33年更別村で初めて発見され、昭和49年、当町でも栗野武夫氏により発見されました。

昭和55年には(3968㎡)を町文化財ヤチカンバ群落指定地としています。

平成15年(42584㎡)を追加指定、平成23年土地所有者から(73・971㎡)の寄付を受け、西別湿原ヤチカンバ群落地として、道の天然記念物に指定されました。

平成28年10月、町指定のヤチカンバ自生地(27・956㎡)の寄贈を道外在住者から受けています。

委員会では現地確認を



別海にある貴重なヤチカンバの群生地

行いました。希少な植物の保護が今後も行われるよう見守っていきます。

コミュニティ・スクールの現状について

近年学校、家庭、地域のつながりが少なくなっています。

今後つながりを深め、「街づくりは人づくり、地域の子どもは地域で育てる」を目標に学校・家庭・地域が一体となって学校教育の質の向上に取り組んでいます。

本年度は上春別小学校区がコミュニティ・スクール推進委員会を開催し、5月8日の2回の会議を実施し、学校教育の向上に取り組んでいます。

平成29年度は野付小学校区、中西別小学校区、上西春別小学校区で実施予定であり、3年後は全地区で導入を予定しています。

まちづくり構想の策定について

北海道防衛局との協議

結果から、(仮称)生涯学習センターの整備について、町の望む防災項目での施設整備は困難であることから、計画策定において選択する項目は交流の項目とすることとなりました。

防災食育センターは、別の財源手当てにより整備を進めます。

(仮称)生涯学習センターは公民館関係機能および観光関係機能を一緒に検討していますが、公民館防災関係機能以外は補助対象外と見込まれます。

観光関連機能は建設費が割高になることから、別の財源手当てによる整備を検討します。

今後住民懇話会、検討委員会、パブリックコメント、住民大会などを実施し、3月末までにまちづくり構想の基本計画策

定を進めます。
委員会として今後も継続調査を行っていきます。

生活習慣改善事業

この事業は、当町の幼小中高の生活と健康に関する実態調査を通して、子どもたちの望ましい生活習慣の形成、現在の習慣の改善で教育活動の推進を図るものです。

調査で、体格は平成17、27年で比較すると、幼小中の肥満は減少しましたが、高校生は増加傾向にあります。

朝食摂取状況は平成18、27年では改善しています。その他にも、平日の睡眠時間、家庭での学習習慣、電子メディアの長時間使用、また使用ルールなどについても調査を行って

おり、今後の教育活動を見守っていきます。

**福祉医療
常任委員会**
委員長 戸田 憲悦

先進地視察研修

(1)北見市成年後見センター
(北見市社協運営、平成
27年北見市と業務委託
契約)

成年後見人センターの
設置にあたり平成25年成
年後見人ネットワークセ
ンター会議(構成団体12)
を立ち上げ、ニーズ調査
を実施、養成講座、市民・
事業者向けセミナー
を開催。高齢者、
障がい者サービス
事業などの福祉施
設での必要性の高
さを確認。

北見市成年後見
人支援センター事
業実施要綱を定め、
市民後見人養成講
座、資格取得フォ
ローアップ講座、
後見業務における



網走桂福祉会では気持ちの込められた陶芸品を作っていました

さまざまなトラブルやリ
スク回避のための対応措
置方法を内規で定め、成
年後見賠償責任保険への
加入、弁護士会、司法書
士会、社会福祉士会との
綿密な連携サポート体制
を確立しています。

(2)障がい者支援施設

社会福祉法人 川東の里
平成18年に「障がい児
者の人格尊重と地域社会
における生活環境を自然
の恵みを享受できる環境
の中で」を基本理念とし

事業内容は、障がい者
支援、居宅・通所支援、
就労移行支援、相談支援
など11の事業所(利用定
員131名)に取り組ん
でいるとのことでした。
障がい者支援施設では
陶芸ボランティア活動な
ど障がい者の真剣な取り
組みは施設利用者が安心
できる場所づくりと職員
の対応の良さが伝わって
くるようでした。

て設立。
入所施設3カ所、通所
施設7カ所、グループホー
ム17カ所、相談事業所3
カ所で212名の職員で
対応。
通所事業所3カ所と入
所施設2カ所を訪問しま
したが、どの施設も入所
者と職員との信頼関係が
感じられ、施設環境の整
備も素晴らしいものでし
た。

(3)障がい者支援施設

社会福祉法人 網走桂福祉会

認定こども園への移行

平成29年4月から中春
別へき地保育園が保育所
型認定こども園に移行し
ます。へき地保育園は認
可外施設のため、北海道
の認定基準確認後認定こ
ども園に申請予定。他5
園については移行準備継
続調査をしています。

**本別海認定こども園
完成**

平成29年1月に視察調
査します。

日常生活支援総合事業

平成27年度介護保険法
の改正により軽度者向け
(要支援・要介護1・2)
ホームヘルプ事業、デイ
サービス事業が平成29年
4月から地域支援事業に
移行されます。これに伴
う利用者負担額について
は国で定める額の1/2
割を上限とする現行策が

継続されることとす。
**国民健康保険法に基づく
国保事業納付金仮算定は**
平成30年度から新制度
への移行に向けて国保納
付金が、各市町村の保険
料決定の基礎となること
から仮算定結果の影響な
どについて次回報告しま
す。

**町有施設におけるアスベ
ストを含む煙突断熱材の影響
(福祉部関係施設)**

上風連・西春別・西
春別保育園、老人保健施
設すこやか、ケアハウス
みどり野、ケアセンター
かしわ野については調査
機関に依頼中。し尿処理
場、西春別診療所、尾岱
沼診療所、いずれの施設
も利用停止はありません。

お詫びと訂正
第79号で掲載したデイホーム
笑楽の営業日数を週5日とし
ましたが、正しくは週6日の
誤りでした。ここにお詫びし
て訂正いたします。

**産業建設
常任委員会**

委員長 杏澤 昌廣

農業委員会改革について

平成27年に農業委員会法が改正され、今年度から新たな農業委員会制度が始まりました。

以前から実質的に役割を担っていた「担い手への農地利用の集積・集約化」「遊休農地の発生防止・解消」「新規参入の促進」という、農地などの利用最適化の推進が農業委員会の重点業務であると明確化されました。

それに伴い、農業委員の選出方法が選挙制と市町村長の選任制の併用から「市町村長の任命制」に変更され、「農地利用最適化推進委員」の新設により定員数の見直しも行われます。

当町は膨大な農地を有しているため、農業委員

が推進委員も兼ねる形で、定数がこれまでの24名から3名増の27名となりま

す。離農の増加に伴い農地の大規模化が進む傾向が続くなか、産業基盤である農地を維持し健全な酪農経営を実現するためには、より効率的な農地の集積が欠かせません。

今後、農地売買・賃借の調整など農業委員の果たさなければならぬ役割は、より一層大きくなっていきます。

農業委員会がこれまで以上に最適に運営されるよう、委員の任命と評価プロセスの透明性の確保や、青年や女性の登用、農業委員の活動実態に即した報酬のあり方などについて、本委員会としても議論を重ねていきます。

なお、当町は平成29年7月の委員改選から新しい農業委員会制度が始まります。

除雪について

一昨年の記録的な豪雪もまだ記憶に新しいところですが、昨年から今年にかけて、グレーダーの更新や民間保有車の増強など、除雪体制の強化が実施されています。

また、大雪が予想される際の除雪開始時間や除雪車両配置の最適化など、委託事業者と綿密な連携を図りながら運用面での対策も検討されています。

しかし、市街地の排雪場所確保や高齢者世帯の玄関先除雪など、議会報告会でも意見が寄せられている課題もあります。

住民の生活と産業に大きな影響がある除雪に関しては、今後も特に力を入れて取り組んでいきます。

水道施設整備計画について

水道管については、国

営かんがい排水事業のなかで、国との共同事業として計画的に更新が進んでいます。

しかし、水源地や浄水場など基幹施設の更新が手つかずとなっている状態です。

耐震性に課題がある浄

水場は、全面更新に多額の費用を要することから、改修による耐震化などが予定されています。

危機管理上、早急な対応を行うよう、当委員会としても働きかけていきます。



老朽化が進み更新が必要な当町の浄水場

根室町村議会議長会主催

議員研修会

(10月22日 中標津町)

中標津町経済センターで開催され、4町の議員51名、事務局員9名が参加しました。

講演会では、北海道町村議会議長会前事務局長で現在参与の勢旗了三氏を迎え「地方議会の使命と議会改革」と題し、約2時間お話をいただきました。

地方議会の基本構造と



議会のあるべき姿を、最近の事例も交え語っていただきました

機能、議会の権限や議員の身分、議事の手続きなどの説明や、地方議会で議長の不信任による知事の先決処分や議会の歴史上の汚点とされた政務活動費の不正流用問題などが話題として出されました。

議会と首長の関係のあり方、さらに議会基本条例の生かし方など議員活動に直結する多くの事例を交えての内容は、今後の議員活動に資するものとして大変有意義な講演会となりました。

森林・林業・林産業活性化 推進議員連盟協議会研修会

(10月31日 標津町)

今回は根釧東部森林管理署管内の標津町川北地区森林共同施業団地の現地視察が行われました。

森林共同施業団地とは、森林管理署と地方自治体、民有林所有者などが、森林整備推進に関する協定を締結することにより、民有林と国有林が連携してより効率的で実効性の高い森林整備を進める取り組みのことです。

管内でも平成24年の別海町中春別地区を皮切りに中標津町南中地区、標津町川北地区と整備が拡大しています。

今回視察した川北地区は旧線路用地と私有林、町有林が複雑に交差しており、個々で森林管理を行うには困難な状況ですが、共同で整備計画を立てて効率的な作業が行わ

れていました。

また、標津町が特に力を入れて取り組んでいる豊かな森と川を育む事業についても現場視察が実施されました。

標津町では平成22年に町と農協、漁協の三者会談が設置され、酪農が河川に与える影

響を最小限に抑えるさまざまな協議が行われてきました。

その一環として17農場で実施されている、ホタテの焼成員を農家の排水側溝に設置し排水浄化を行っている場所を視察しました。



排水溝に設置されているホタテ焼成員の浄水施設

農場に加えて河川に通ずる大型排水溝4ヶ所にも施工されており、これらが三者会議の直接事業として実施されているとのこと。

当町も畜産環境条例の制定など、河川環境改善には力を入れていますが、地場の副産物を利用するなど、参考になる事業でした。(佐藤議員)

地域とともにある別海高校 その2

ほっ かい どう べつ かい こう どう がっ こう ねん はや せ あい り
北海道別海高等学校 3年 早瀬 彩了さん



私の夢は、教員になることです。

小中学校と、へき地校に通学していた私にとって、教員はとても身近な存在でした。

真正面から生徒と向き合ってくださった恩師に憧れ、教員を志望しています。

今回の学習ボランティアを通して、中学生と接したり、先生方の様子を近くで見ることができたりと、実際の教育現場を体験することができました。

ひとりひとり異なる内容を学習しているため、その生徒に適した指導方法を考えるのが難しかったです。教員を目指す私にとって、とても有意義な体験となりました。

春から、教員免許を取得することができるよう、生まれ育った別海町に恩返しができるよう、4年間しっかりと学んでいきます。

編集後記

新たな年の始まりと共に編集作業が始まり、ここに第80号の議会だよりを発行させていただきました。

年間4回の発行ですから、始まりは20年前となります。

当初から議員自らの手で作り上げることとし、今でもその伝統は当り前のように受け継がれています。

前号から3号連続で別海高校を「町の宝物」として取り上げています。

別海高校の創立は1950年。「日々是新」を校訓に、町内唯一の高校としての期待も背負いながら伝統を築いてこられました。

学校は地域の中心にあって、未来を担う「人材」を育てる大切な場であります。

地域から学校の灯を消さないためにも、皆さんと共に考え応援できればと思います。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。
(木嶋委員)

飲んだら乗るな、乗らせるな、地域の力で飲酒運転撲滅を!!